

【表紙】

【提出書類】 四半期報告書

【根拠条文】 金融商品取引法第24条の4の7第1項

【提出先】 関東財務局長

【提出日】 2023年1月13日

【四半期会計期間】 第76期第3四半期(自 2022年9月1日 至 2022年11月30日)

【会社名】 株式会社オンワードホールディングス

【英訳名】 ONWARD HOLDINGS CO.,LTD.

【代表者の役職氏名】 代表取締役社長 保元道宣

【本店の所在の場所】 東京都中央区日本橋三丁目10番5号

【電話番号】 03(4512)1030(ダイヤルイン)

【事務連絡者氏名】 取締役 財務・経理・IR担当 佐藤修

【最寄りの連絡場所】 東京都中央区日本橋三丁目10番5号

【電話番号】 03(4512)1030(ダイヤルイン)

【事務連絡者氏名】 取締役 財務・経理・IR担当 佐藤修

【縦覧に供する場所】 株式会社東京証券取引所  
(東京都中央区日本橋兜町2番1号)

## 第一部 【企業情報】

### 第1 【企業の概況】

#### 1 【主要な経営指標等の推移】

回次	第75期 第3四半期 連結累計期間	第76期 第3四半期 連結累計期間	第75期
会計期間	自 2021年3月1日 至 2021年11月30日	自 2022年3月1日 至 2022年11月30日	自 2021年3月1日 至 2022年2月28日
売上高 (百万円)	124,355	130,397	168,453
経常利益又は経常損失( ) (百万円)	759	4,698	507
親会社株主に帰属する 四半期(当期)純利益 (百万円)	8,082	2,723	8,566
四半期包括利益又は包括利益 (百万円)	10,058	9,849	11,657
純資産額 (百万円)	65,656	84,938	77,257
総資産額 (百万円)	167,422	166,028	157,727
1株当たり四半期(当期)純利益 (円)	59.60	20.08	63.17
潜在株式調整後1株当たり 四半期(当期)純利益 (円)	59.48	20.05	63.04
自己資本比率 (%)	39.0	45.0	42.4

回次	第75期 第3四半期 連結会計期間	第76期 第3四半期 連結会計期間
会計期間	自 2021年9月1日 至 2021年11月30日	自 2022年9月1日 至 2022年11月30日
1株当たり四半期純利益 (円)	4.68	16.57

(注)当社は四半期連結財務諸表を作成していますので、提出会社の主要な経営指標等の推移については記載していません。

#### 2 【事業の内容】

当第3四半期連結累計期間において、当社グループ（当社および当社の関係会社）が営む事業の内容について重要な変更はありません。

また、主要な関係会社の異動は、以下のとおりです。

(ライフスタイル関連事業)

第1四半期連結会計期間において、当社の連結子会社であったオンワードビーチリゾートグアムINC.の全株式を譲渡したため、連結の範囲から除外しています。

## 第2【事業の状況】

### 1【事業等のリスク】

当第3四半期連結累計期間において、当四半期報告書に記載した事業の状況、経理の状況等に関する事項のうち、経営者が連結会社の財政状態、経営成績およびキャッシュ・フローの状況に重要な影響を与える可能性があるとして認識している主要なリスクの発生または前事業年度の有価証券報告書に記載した「事業等のリスク」についての重要な変更はありません。

### 2【経営者による財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析】

文中の将来に関する事項は、当四半期連結会計期間の末日現在において判断するものです。

#### (1) 経営成績に関する説明

当第3四半期連結累計期間におけるわが国経済は、新型コロナウイルス感染症の影響による行動制限の緩和により経済活動の正常化が進み、回復基調で推移しましたが、国際情勢に起因するエネルギー資源、原材料の高騰や、円安の進行を背景とする先行き不透明な状況が続いています。

このような状況の中、公式オンラインストア掲載の商品をリアル店舗に取り寄せて試着の上で購入できるOMO(Online Merges with Offline)サービス「クリック&トライ」において、利用者数が高水準で推移し、リアル店舗での販売の拡大に貢献しました。また、グローバル事業構造改革の一環として自社ブランド事業へ経営資源を集中させる方針のもと、2021年4月に策定した中期経営ビジョン「ONWARD VISION 2030」の実現に向け、アパレル・ライフスタイルセグメントの両輪でビジネスを推進しています。当期において、ブランドビジネスのさらなる強化・推進に向けて、アメリカンライフスタイルブランド『JOSEPH ABBOUD(ジョセフ・アブード)』の日本における商標権を取得しました。既存の百貨店販路のみならず、ショッピングセンター、路面店、他社ECモールなど新たな販売チャネルへ積極的に出店し、商品ラインアップを大幅に拡充することで、当社グループの基幹ブランドへの成長を加速させていきます。

以上の結果、連結売上高は1,303億97百万円(前年同期比4.9%増)、連結営業利益は43億15百万円(前年同期は営業損失9億48百万円)、連結経常利益は46億98百万円(前年同期は経常損失7億59百万円)、親会社株主に帰属する四半期純利益は27億23百万円(前年同期比66.3%減)となりました。

また、当社グループでは新規事業の創出やM&A等を活用した事業基盤の強化・拡大による成長を加速していく中で、会計基準の差異にとられることなく企業比較を容易にすることを目的とし、EBITDA(営業利益+減価償却費およびのれん償却費)を経営指標としています。

なお、当第3四半期連結累計期間のEBITDAは82億44百万円(前年同期比191.0%増)となりました。

セグメント別の状況は、次のとおりです。

#### 〔アパレル関連事業〕

国内事業は、中核事業会社である株式会社オンワード樫山において、「クリック&トライ」サービスを導入したOMO型店舗で引き続き売上が拡大し、百貨店を中心にリアル店舗での売上が好調に推移しました。『グレースコンチネンタル』を展開する株式会社アイランドでは、販売促進策が奏功し、売上が回復しました。また、『KASHIYAMA』を展開する株式会社オンワードパーソナルスタイルでは、販売価格の見直しや事業の効率化による固定費の削減等により増収となり、収益性が改善しました。

海外事業は、グローバル事業構造改革による欧州での不採算事業から撤退した影響から、減収となりました。

以上の結果、アパレル関連事業は増収、大幅に黒字転換となりました。

#### 〔ライフスタイル関連事業〕

ウェルネス事業を展開するチャコット株式会社は、主力のバレエ、フィットネス用品が堅調に推移し、売上が順調に拡大しました。カタログギフト事業を展開する株式会社大和は、ブライダル関連の需要が継続して伸長しており、増収増益となりました。ペット・ホームライフ事業を展開する株式会社クリエイティブヨーコも、継続して好調に推移し、ライフスタイル関連事業の各主要会社において増収増益となりました。

以上の結果、ライフスタイル関連事業は増収増益となりました。

( 2 ) 財政状態に関する説明

( 資産、負債、純資産の状況 )

当第3四半期連結会計期間末における総資産は、前連結会計年度末に比べ83億円増加し1,660億28百万円となりました。これは主に、受取手形、売掛金及び契約資産が34億54百万円、商品及び製品が56億88百万円、投資有価証券が31億37百万円増加し、現金及び預金が22億7百万円、建物及び構築物が18億22百万円減少したことによるものです。

負債は、前連結会計年度末に比べ6億19百万円増加し810億89百万円となりました。これは主に、支払手形及び買掛金が27億12百万円、電子記録債務が26億89百万円増加し、短期借入金が10億73百万円、長期借入金が27億62百万円減少したことによるものです。

純資産は、前連結会計年度末に比べ76億81百万円増加し849億38百万円となりました。これは主に、親会社株主に帰属する四半期純利益27億23百万円、剰余金の配当16億27百万円、その他有価証券評価差額金の増加37億77百万円、為替換算調整勘定の増加28億88百万円によるものです。

この結果、自己資本比率は45.0%となりました。

( 3 ) 事業上および財務上の対処すべき課題

当第3四半期連結累計期間において、当社グループの事業上および財務上の対処すべき課題に重要な変更および新たに生じた課題はありません。

( 4 ) 研究開発活動

記載すべき重要な研究開発活動はありません。

3【経営上の重要な契約等】

当第3四半期連結会計期間において、経営上の重要な契約等の決定または締結等はありません。

### 第3 【提出会社の状況】

#### 1 【株式等の状況】

##### (1) 【株式の総数等】

###### 【株式の総数】

種類	発行可能株式総数(株)
普通株式	400,000,000
計	400,000,000

###### 【発行済株式】

種類	第3四半期 会計期間末現在 発行数(株) (2022年11月30日)	提出日現在 発行数(株) (2023年1月13日)	上場金融商品取引所名 又は登録認可金融 商品取引業協会名	内容
普通株式	157,921,669	157,921,669	東京証券取引所 (プライム市場)	権利内容に何ら限定のない当社 における標準となる株式です。 なお、単元株式数は100株です。
計	157,921,669	157,921,669		

##### (2) 【新株予約権等の状況】

###### 【ストックオプション制度の内容】

該当事項はありません。

###### 【その他の新株予約権等の状況】

該当事項はありません。

##### (3) 【行使価額修正条項付新株予約権付社債券等の行使状況等】

該当事項はありません。

##### (4) 【発行済株式総数、資本金等の推移】

年月日	発行済株式 総数増減数 (株)	発行済株式 総数残高 (株)	資本金増減額 (百万円)	資本金残高 (百万円)	資本準備金 増減額 (百万円)	資本準備金残高 (百万円)
2022年9月1日～ 2022年11月30日		157,921,669		30,079		38,550

##### (5) 【大株主の状況】

当四半期会計期間は第3四半期会計期間であるため、記載事項はありません。

## (6)【議決権の状況】

## 【発行済株式】

2022年11月30日現在

区分	株式数(株)	議決権の数(個)	内容
無議決権株式			
議決権制限株式(自己株式等)			
議決権制限株式(その他)			
完全議決権株式(自己株式等)	(自己保有株式) 普通株式 22,235,600		
完全議決権株式(その他)	普通株式 135,562,100	1,355,621	
単元未満株式	普通株式 123,969		一単元(100株)未満の株式
発行済株式総数	157,921,669		
総株主の議決権		1,355,621	

(注)「単元未満株式」欄の普通株式には、当社所有の自己株式98株が含まれています。

## 【自己株式等】

2022年11月30日現在

所有者の氏名 又は名称	所有者の住所	自己名義所有 株式数(株)	他人名義所有 株式数(株)	所有株式数 の合計(株)	発行済株式 総数に対する 所有株式数 の割合(%)
(自己保有株式) 株式会社オンワード ホールディングス	東京都中央区日本橋 3丁目10番5号	22,235,600		22,235,600	14.08
計		22,235,600		22,235,600	14.08

## 2【役員の状況】

該当事項はありません。

## 第4 【経理の状況】

### 1. 四半期連結財務諸表の作成方法について

当社の四半期連結財務諸表は、「四半期連結財務諸表の用語、様式及び作成方法に関する規則」(2007年内閣府令第64号)に基づいて作成しています。

### 2. 監査証明について

当社は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、第3四半期連結会計期間(2022年9月1日から2022年11月30日まで)および第3四半期連結累計期間(2022年3月1日から2022年11月30日まで)に係る四半期連結財務諸表について、EY新日本有限責任監査法人による四半期レビューを受けています。

## 1【四半期連結財務諸表】

## (1)【四半期連結貸借対照表】

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2022年2月28日)	当第3四半期連結会計期間 (2022年11月30日)
<b>資産の部</b>		
流動資産		
現金及び預金	15,209	13,002
受取手形、売掛金及び契約資産	14,204	17,659
商品及び製品	23,908	29,597
仕掛品	449	541
原材料及び貯蔵品	2,478	2,645
その他	4,509	4,649
貸倒引当金	252	359
流動資産合計	60,508	67,737
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物(純額)	23,008	21,185
土地	23,371	23,461
その他(純額)	11,663	11,472
有形固定資産合計	58,042	56,120
無形固定資産		
のれん	4,631	4,332
その他	4,717	5,351
無形固定資産合計	9,349	9,684
投資その他の資産		
投資有価証券	14,117	17,254
退職給付に係る資産	3,248	3,464
繰延税金資産	4,338	2,761
その他	8,286	9,209
貸倒引当金	163	204
投資その他の資産合計	29,827	32,486
固定資産合計	97,219	98,291
資産合計	157,727	166,028



(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2022年2月28日)	当第3四半期連結会計期間 (2022年11月30日)
<b>負債の部</b>		
流動負債		
支払手形及び買掛金	6,361	9,073
電子記録債務	11,860	14,550
短期借入金	22,758	21,684
未払法人税等	2,022	889
賞与引当金	626	2,302
役員賞与引当金	50	75
その他	12,080	10,945
流動負債合計	55,761	59,522
固定負債		
長期借入金	12,377	9,615
退職給付に係る負債	2,858	2,813
役員退職慰労引当金	247	259
資産除去債務	2,503	2,596
その他	6,722	6,283
固定負債合計	24,709	21,567
負債合計	80,470	81,089
<b>純資産の部</b>		
株主資本		
資本金	30,079	30,079
資本剰余金	50,390	50,390
利益剰余金	15,391	16,460
自己株式	20,831	20,779
株主資本合計	75,030	76,151
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	1,646	2,130
繰延ヘッジ損益	1	81
土地再評価差額金	5,698	5,698
為替換算調整勘定	328	2,560
退職給付に係る調整累計額	472	507
その他の包括利益累計額合計	8,144	1,432
新株予約権	122	97
非支配株主持分	10,248	10,122
純資産合計	77,257	84,938
負債純資産合計	157,727	166,028

## (2)【四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書】

## 【四半期連結損益計算書】

## 【第3四半期連結累計期間】

(単位：百万円)

	前第3四半期連結累計期間 (自 2021年3月1日 至 2021年11月30日)	当第3四半期連結累計期間 (自 2022年3月1日 至 2022年11月30日)
売上高	124,355	130,397
売上原価	58,896	57,772
売上総利益	65,458	72,625
販売費及び一般管理費	66,407	68,309
営業利益又は営業損失( )	948	4,315
営業外収益		
受取利息	45	20
受取配当金	92	107
為替差益	-	788
助成金収入	804	133
その他	647	205
営業外収益合計	1,591	1,255
営業外費用		
支払利息	304	234
持分法による投資損失	66	42
為替差損	24	-
その他	1,006	595
営業外費用合計	1,401	873
経常利益又は経常損失( )	759	4,698
特別利益		
固定資産売却益	17,924	0
投資有価証券売却益	103	123
関係会社株式売却益	2,944	1,303
雇用調整助成金等	269	-
その他	66	29
特別利益合計	21,308	1,456
特別損失		
臨時休業等による損失	1,311	4
関係会社株式売却損	1,829	-
減損損失	728	723
関係会社整理損	1,968	-
その他	387	153
特別損失合計	6,225	880
税金等調整前四半期純利益	14,323	5,273
法人税等合計	6,106	2,621
四半期純利益	8,216	2,652
非支配株主に帰属する四半期純利益又は非支配株主に帰属する四半期純損失( )	133	71
親会社株主に帰属する四半期純利益	8,082	2,723

## 【四半期連結包括利益計算書】

## 【第3四半期連結累計期間】

(単位：百万円)

	前第3四半期連結累計期間 (自 2021年3月1日 至 2021年11月30日)	当第3四半期連結累計期間 (自 2022年3月1日 至 2022年11月30日)
四半期純利益	8,216	2,652
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	289	3,777
繰延ヘッジ損益	17	80
土地再評価差額金	1,042	-
為替換算調整勘定	1,080	3,374
退職給付に係る調整額	26	34
その他の包括利益合計	1,841	7,197
四半期包括利益	10,058	9,849
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	9,902	9,435
非支配株主に係る四半期包括利益	155	414

## 【注記事項】

(連結の範囲または持分法適用の範囲の変更)

第1四半期連結会計期間において、株式の売却等によりオンワードビーチリゾートグアムINC.、オンワードカシヤマグアムINC.、アガニアリゾートクラブLPS、オルロージュサンブノアS.A.S.、オルロージュサンブノアUK Ltd.を連結の範囲から除外しています。

当第3四半期連結会計期間において、株式会社オンワードインターナショナルファッション、株式会社オンワードファッションラボを清算したため連結の範囲から除外しています。

なお、変更後の連結子会社の数は41社です。

(会計方針の変更)

(時価の算定に関する会計基準等の適用)

「時価の算定に関する会計基準」(企業会計基準第30号 2019年7月4日。以下、「時価算定会計基準」という。)等を第1四半期連結会計期間の期首から適用し、時価算定会計基準第19項および「金融商品に関する会計基準」(企業会計基準第10号 2019年7月4日)第44-2項に定める経過的な取扱いに従って、時価算定会計基準等が定める新たな会計方針を、将来にわたって適用することとしています。なお、四半期連結財務諸表に与える影響はありません。

(追加情報)

(連結納税制度からグループ通算制度への移行に係る税効果会計の適用)

当社および一部の国内連結子会社は、「所得税法等の一部を改正する法律」(2020年法律第8号)において創設されたグループ通算制度への移行およびグループ通算制度への移行にあわせて単体納税制度の見直しが行われた項目は、「連結納税制度からグループ通算制度への移行に係る税効果会計の適用に関する取扱い」(実務対応報告第39号 2020年3月31日)第3項の取扱いにより、「税効果会計に係る会計基準の適用指針」(企業会計基準適用指針第28号 2018年2月16日)第44項の定めを適用せず、繰延税金資産および繰延税金負債の額は改正前の税法の規定に基づいています。

(新型コロナウイルス感染症の感染拡大の影響に関する会計上の見積り)

前連結会計年度の有価証券報告書の(重要な会計上の見積り)に記載した新型コロナウイルス感染症拡大の影響に関する仮定について重要な変更はありません。

(四半期連結損益計算書関係)

臨時休業等による損失

新型コロナウイルス感染症に対する政府・自治体からの要請を受けて、臨時休業を行った店舗・リゾート施設の休業期間中の固定費(人件費・減価償却費・賃借料等)を、「臨時休業等による損失」として「特別損失」に計上しています。

前第3四半期連結累計期間(自2021年3月1日至2021年11月30日)

日本・北米・欧州などにおける商業施設出店店舗・直営店・リゾート施設等の休業期間中に発生した固定費について、「特別損失」に計上しています。

当第3四半期連結累計期間(自2022年3月1日至2022年11月30日)

中国における直営店の休業期間中に発生した固定費について、「特別損失」に計上しています。

## (四半期連結キャッシュ・フロー計算書関係)

当第3四半期連結累計期間に係る四半期連結キャッシュ・フロー計算書は作成していません。

なお、第3四半期連結累計期間に係る減価償却費(のれんを除く無形固定資産に係る償却費を含む。)およびのれんの償却額は、次のとおりです。

	前第3四半期連結累計期間 (自 2021年3月1日 至 2021年11月30日)	当第3四半期連結累計期間 (自 2022年3月1日 至 2022年11月30日)
減価償却費	3,501百万円	3,313百万円
のれん償却額	572百万円	614百万円

## (株主資本等関係)

前第3四半期連結累計期間 (自 2021年3月1日 至 2021年11月30日)

## 1. 配当金支払額

決議	株式の種類	配当金の総額 (百万円)	1株当たり 配当額(円)	基準日	効力発生日	配当の原資
2021年5月27日 定時株主総会	普通株式	1,627	12.00	2021年2月28日	2021年5月28日	利益剰余金

## 2. 基準日が当第3四半期連結累計期間に属する配当のうち、配当の効力発生日が当第3四半期連結会計期間の末日後となるもの

該当事項はありません。

## 3. 株主資本の金額の著しい変動

該当事項はありません。

当第3四半期連結累計期間 (自 2022年3月1日 至 2022年11月30日)

## 1. 配当金支払額

決議	株式の種類	配当金の総額 (百万円)	1株当たり 配当額(円)	基準日	効力発生日	配当の原資
2022年5月26日 定時株主総会	普通株式	1,627	12.00	2022年2月28日	2022年5月27日	利益剰余金

## 2. 基準日が当第3四半期連結累計期間に属する配当のうち、配当の効力発生日が当第3四半期連結会計期間の末日後となるもの

該当事項はありません。

## 3. 株主資本の金額の著しい変動

該当事項はありません。

(セグメント情報等)

## 【セグメント情報】

前第3四半期連結累計期間(自2021年3月1日至2021年11月30日)

## 1. 報告セグメントごとの売上高および利益又は損失の金額に関する情報

(単位:百万円)

	アパレル関連事業			ライフスタイル 関連事業	計	調整額 (注)1	四半期連結 損益計算書 計上額 (注)2
	(国内)	(海外)	計				
売上高							
(1)外部顧客への売上高	83,633	12,407	96,041	28,313	124,355	-	124,355
(2)セグメント間の内部 売上高又は振替高	545	849	1,395	1,200	2,595	2,595	-
計	84,179	13,257	97,436	29,513	126,950	2,595	124,355
セグメント利益又は損失 ( )	1,949	778	2,728	1,870	858	90	948

(注)1.セグメント利益又は損失( )の調整額 90百万円には、のれんの償却額 572百万円およびセグメント間取引  
消去2,810百万円、各報告セグメントに配分していない全社費用 2,329百万円が含まれています。

全社費用は主にセグメントに帰属しない一般管理費です。

2.セグメント利益又は損失( )は、四半期連結損益計算書の営業損失と一致しています。

## 2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失またはのれん等に関する情報

重要な発生および変動はありません。

当第3四半期連結累計期間(自2022年3月1日至2022年11月30日)

## 1. 報告セグメントごとの売上高および利益又は損失の金額に関する情報

(単位:百万円)

	アパレル関連事業			ライフスタイル 関連事業	計	調整額 (注)1	四半期連結 損益計算書 計上額 (注)2
	(国内)	(海外)	計				
売上高							
(1)外部顧客への売上高	89,836	9,536	99,372	31,025	130,397	-	130,397
(2)セグメント間の内部 売上高又は振替高	706	1,284	1,990	1,192	3,182	3,182	-
計	90,542	10,820	101,363	32,217	133,580	3,182	130,397
セグメント利益又は損失 ( )	3,227	1,111	2,115	3,138	5,254	938	4,315

(注)1.セグメント利益又は損失( )の調整額 938百万円には、のれんの償却額 614百万円およびセグメント間取引  
消去2,345百万円、各報告セグメントに配分していない全社費用 2,669百万円が含まれています。

全社費用は主にセグメントに帰属しない一般管理費です。

2.セグメント利益又は損失( )は、四半期連結損益計算書の営業利益と一致しています。

## 2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失またはのれん等に関する情報

重要な発生および変動はありません。

## (収益認識関係)

## 顧客との契約から生じる収益を分解した情報

当社グループは、紳士服、婦人服等の繊維製品の企画、製造および販売を主たる事業とする「アパレル関連事業」と、コスメティック事業やバレエ・ダンス、リゾートといったウェルネス事業、ペット関連用品等の事業、ギフト事業および不動産賃貸事業を統括した「ライフスタイル関連事業」を事業領域としています。

主たる収益の分解と報告セグメントとの関連は、以下のとおりです。

前第3四半期連結累計期間(自 2021年3月1日 至 2021年11月30日)

				売上高 (百万円)	構成比 (%)
アパレル関連事業	国内	リアル	小売	49,968	40.1
			卸売	12,518	10.1
		E C		21,146	17.0
		計		83,633	67.2
	海外		12,407	10.0	
	計		96,041	77.2	
ライフスタイル関連事業				27,077	21.8
顧客との契約から生じる収益				123,119	99.0
その他の収益(ライフスタイル関連事業)				1,235	1.0
合 計				124,355	100.0

- (注) 1. アパレル関連事業 - 国内 - リアルの「小売」には百貨店、路面店、ショッピングセンター、アウトレットモールなどの売上を含めています。  
 2. 売上高の数値は連結消去後のものになります。  
 3. 「その他の収益(ライフスタイル関連事業)」には、リース取引により生じた収益等を含めています。

当第3四半期連結累計期間(自 2022年3月1日 至 2022年11月30日)

				売上高 (百万円)	構成比 (%)
アパレル関連事業	国内	リアル	小売	56,495	43.3
			卸売	12,027	9.2
		E C		21,313	16.3
		計		89,836	68.9
	海外		9,536	7.3	
	計		99,372	76.2	
ライフスタイル関連事業				29,667	22.8
顧客との契約から生じる収益				129,040	99.0
その他の収益(ライフスタイル関連事業)				1,357	1.0
合 計				130,397	100.0

- (注) 1. アパレル関連事業 - 国内 - リアルの「小売」には百貨店、路面店、ショッピングセンター、アウトレットモールなどの売上を含めています。  
 2. 売上高の数値は連結消去後のものになります。  
 3. 「その他の収益(ライフスタイル関連事業)」には、リース取引により生じた収益等を含めています。



## (1株当たり情報)

1株当たり四半期純利益および算定上の基礎ならびに潜在株式調整後1株当たり四半期純利益および算定上の基礎は、以下のとおりです。

項目	前第3四半期連結累計期間 (自 2021年3月1日 至 2021年11月30日)	当第3四半期連結累計期間 (自 2022年3月1日 至 2022年11月30日)
(1) 1株当たり四半期純利益	59円60銭	20円08銭
(算定上の基礎)		
親会社株主に帰属する四半期純利益(百万円)	8,082	2,723
普通株主に帰属しない金額(百万円)	-	-
普通株式に係る親会社株主に帰属する 四半期純利益(百万円)	8,082	2,723
普通株式の期中平均株式数(千株)	135,614	135,642
(2) 潜在株式調整後1株当たり四半期純利益	59円48銭	20円05銭
(算定上の基礎)		
親会社株主に帰属する四半期純利益調整額 (百万円)	-	-
普通株式増加数(千株)	271	242
希薄化効果を有しないため、潜在株式調整後1株当たり 四半期純利益の算定に含めなかった潜在株式で、 前連結会計年度末から重要な変動があったものの概要	-	-

## (重要な後発事象)

該当事項はありません。

## 2【その他】

該当事項はありません。

## 第二部 【提出会社の保証会社等の情報】

該当事項はありません。

# 独立監査人の四半期レビュー報告書

2023年1月13日

株式会社オンワードホールディングス

取締役会 御中

## EY新日本有限責任監査法人

東京事務所

指定有限責任社員 業務執行社員	公認会計士	廣瀬	美智代
--------------------	-------	----	-----

指定有限責任社員 業務執行社員	公認会計士	小林	勇人
--------------------	-------	----	----

指定有限責任社員 業務執行社員	公認会計士	井上	拓
--------------------	-------	----	---

### 監査人の結論

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、「経理の状況」に掲げられている株式会社オンワードホールディングスの2022年3月1日から2023年2月28日までの連結会計年度の第3四半期連結会計期間（2022年9月1日から2022年11月30日まで）及び第3四半期連結累計期間（2022年3月1日から2022年11月30日まで）に係る四半期連結財務諸表、すなわち、四半期連結貸借対照表、四半期連結損益計算書、四半期連結包括利益計算書及び注記について四半期レビューを行った。

当監査法人が実施した四半期レビューにおいて、上記の四半期連結財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して、株式会社オンワードホールディングス及び連結子会社の2022年11月30日現在の財政状態及び同日をもって終了する第3四半期連結累計期間の経営成績を適正に表示していないと信じさせる事項が全ての重要な点において認められなかった。

### 監査人の結論の根拠

当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期レビューの基準に準拠して四半期レビューを行った。四半期レビューの基準における当監査法人の責任は、「四半期連結財務諸表の四半期レビューにおける監査人の責任」に記載されている。当監査法人は、我が国における職業倫理に関する規定に従って、会社及び連結子会社から独立しており、また、監査人としてのその他の倫理上の責任を果たしている。当監査法人は、結論の表明の基礎となる証拠を入手したと判断している。

### 四半期連結財務諸表に対する経営者並びに監査役及び監査役会の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して四半期連結財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない四半期連結財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

四半期連結財務諸表を作成するに当たり、経営者は、継続企業の前提に基づき四半期連結財務諸表を作成することが適切であるかどうかを評価し、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に基づいて継続企業に関する事項を開示する必要がある場合には当該事項を開示する責任がある。

監査役及び監査役会の責任は、財務報告プロセスの整備及び運用における取締役の職務の執行を監視することにある。

### 四半期連結財務諸表の四半期レビューにおける監査人の責任

監査人の責任は、監査人が実施した四半期レビューに基づいて、四半期レビュー報告書において独立の立場から四半期連結財務諸表に対する結論を表明することにある。

監査人は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期レビューの基準に従って、四半期レビューの過程を通じて、職業的専門家としての判断を行い、職業的懐疑心を保持して以下を実施する。

- ・ 主として経営者、財務及び会計に関する事項に責任を有する者等に対する質問、分析的手続その他の四半期レビュー手続を実施する。四半期レビュー手続は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して

実施される年度の財務諸表の監査に比べて限定された手続である。

- ・ 継続企業の前提に関する事項について、重要な疑義を生じさせるような事象又は状況に関して重要な不確実性が認められると判断した場合には、入手した証拠に基づき、四半期連結財務諸表において、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して、適正に表示されていないと信じさせる事項が認められないかどうか結論付ける。また、継続企業の前提に関する重要な不確実性が認められる場合は、四半期レビュー報告書において四半期連結財務諸表の注記事項に注意を喚起すること、又は重要な不確実性に関する四半期連結財務諸表の注記事項が適切でない場合は、四半期連結財務諸表に対して限定付結論又は否定的結論を表明することが求められている。監査人の結論は、四半期レビュー報告書日までに入手した証拠に基づいているが、将来の事象や状況により、企業は継続企業として存続できなくなる可能性がある。
- ・ 四半期連結財務諸表の表示及び注記事項が、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠していないと信じさせる事項が認められないかどうかとともに、関連する注記事項を含めた四半期連結財務諸表の表示、構成及び内容、並びに四半期連結財務諸表が基礎となる取引や会計事象を適正に表示していないと信じさせる事項が認められないかどうかを評価する。
- ・ 四半期連結財務諸表に対する結論を表明するために、会社及び連結子会社の財務情報に関する証拠を入手する。監査人は、四半期連結財務諸表の四半期レビューに関する指示、監督及び実施に関して責任がある。監査人は、単独で監査人の結論に対して責任を負う。  
監査人は、監査役及び監査役会に対して、計画した四半期レビューの範囲とその実施時期、四半期レビュー上の重要な発見事項について報告を行う。  
監査人は、監査役及び監査役会に対して、独立性についての我が国における職業倫理に関する規定を遵守したこと、並びに監査人の独立性に影響を与えると合理的に考えられる事項、及び阻害要因を除去又は軽減するためにセーフガードを講じている場合はその内容について報告を行う。

#### 利害関係

会社及び連結子会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以 上

---

(注) 1 . 上記の四半期レビュー報告書の原本は当社（四半期報告書提出会社）が別途保管しております。

2 . XBRLデータは四半期レビューの対象には含まれていません。